

～ラインナップ～

1.湖岸で見られる特定外来生物	1～2P
2.2021 年度前期図書紹介活動	3P
3.「私の細道」(その 39)	4～5P
4.コラム「新聞スクラップ記事から」	6P
5.新たに登録されたパートナー紹介	6P
6.パートナー情報誌「香澄」原稿募集	6P
7.編集後記	6P

「湖岸で見られる特定外来生物(植物)」

私達霞ヶ浦湖岸植物同好会が観察を続けている湖岸(田村・沖宿・戸崎)には 580 種程の植物が見られ、約 33%が外来種です。その中でも近年、特定外来生物(植物)の増加が危惧されています。

「特定外来生物」とは、海外を起源とし日本国内の生態系及び人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものとして「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(外来生物法)で指定された生物で飼養、栽培、保管、運搬、輸入、譲渡、放出等が禁止されています。



(アレチウリ)

湖岸には観察当初(2006 年)から全草に刺があるアレチウリの繁茂が見られました。北米原産の蔓性 1 年草で約 70 年前に輸入大豆に混じり侵入したとされ、有機質の多い河川岸には特に多いようです。

湖岸では年により増減が見られますが、昨夏は E 区などで他の植物を覆うように繁茂し、晩秋まで花や若い実(写真左)が見られました。

1 本の蔓に数千個の実が付くこともあるようです。実は黒褐色に熟し、種子が 1 個入っています。

ブラジル原産オオフサモは川尻川東側の堤脚水路を埋

めるように生育し、水位が下がった川尻川河口で密生しているのが見られたこともあります。底泥ごと除去されても復活し、冬には倒伏し水中で越冬します。

センター南に位置する H・I 区再生地に侵入し、平場寄りや東突堤周囲で草丈を伸ばし繁茂しています(写真右)。



(ミズヒマワリ)

自然再生工事開始前の 2012 年 9 月、H 区の低地水際でミズヒマワリ

を確認しました。この時には定着しませんでした。2014 年 10 月、工事直後の B 区水際に侵入しました。H 区西突堤周囲でも工事後の 2017 年 9 月には大きな群生が見られるようになりました(写真左)。

中南米原産の多年草で水中にある葉や茎は冬にも枯



(オオフサモ)

れずに残ります。現在は広く大小の群生が見られ、水際だけでなくヨシ原の中にも白い花が見られます。11月末、パートナーの有吉さんが自然再生協議会の駆除作業に参加しました。生育地点が多いことや草体が大きく作業に手間がかかることから、完全な除去は難しそうです。

2017年5月、手野地先の湖岸で中南米原産多年草のオオバナミズキンバイが見つかりました。琵琶湖では2009年に確認され驚異的な速度で生育面積を広げ、駆除が進められてきました。

霞ヶ浦では早期に防除計画が立ち、定期的な駆除作業により群生が縮小している一方、2020年夏、H区で繁茂しているのが見つかりました(写真右)。今年度も引き続き、センター職員の方々も参加している駆除作業が行われ、パートナーの江川さんと一緒に参加しました。きれいに除去したと思われた箇所でも再繁茂が見られました。ここには2020年まで国絶滅危惧Ⅱ類・県ⅠB類のサンショウモが出現しました。



(オオバナミズキンバイ)



(オオカワヂシャ)

今年度、観察区域内で新たな特定外来種2種を確認しました。5月、A区弁天前低地の自然堤防水際で花を付けた欧州・アジア北部原産のオオカワヂシャ1株(写真左)が見つかり、実を付けました。国・県の準絶滅危惧カワヂシャと交雑しホナガカワヂシャという雑種を作り、発芽能力のある種子を生産することが確かめられています。ホナガカワヂシャは再生工事直後のB

区に出現しました。

7月10日、パートナーの有吉さんが戸崎のウェットランド消波堤西付け根で南米原産多年草ナガエツルノゲイトウ(写真右)を撮影し、その後、E区水際でも見つかりました。

再生力が旺盛で在来種の生育地を奪ったり水田に侵

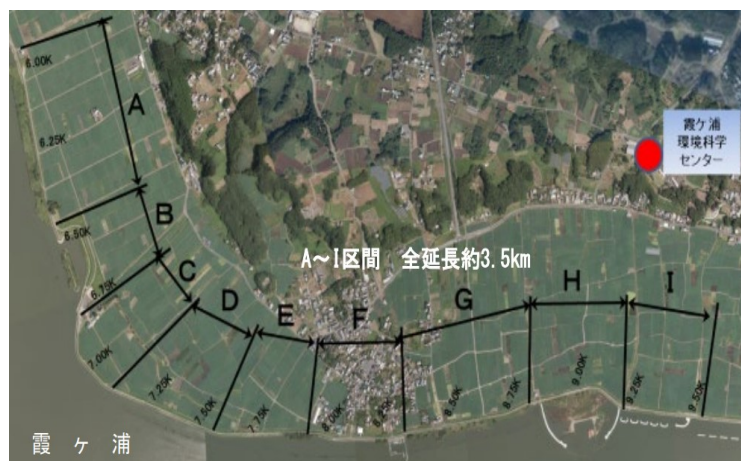


(ナガエツルノゲイトウ)

入したりして被害を及ぼします。

早期発見と丁寧な抜き取りが重要で霞ヶ浦河川事務所が防除計画を作成中です。

私達はこれらの特定外来種について知り、外来種被害予防3原則「入れない」「捨てない」「拡げない」を守って霞ヶ浦の自然環境と付き合っていきたいと思っています。



(霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎自然再生事業地)

霞ヶ浦湖岸植物同好会

(パートナー 二階堂)

2021年度前期図書紹介活動の報告



2021年4月～9月までにセンター文献資料室で新しく購入された図書は103冊でした。その内パートナーにより図書紹介された本は下表の23冊です。

図書紹介の内容につきましては、2階交流サロンに有る「図書紹介一覧」ファイルをご覧ください。

書名	著者名	出版社
霞ヶ浦風土記	佐賀 純一	常陽新聞
60分でわかる！SDGs 超入門	バウンド	技術評論社
見えない絶景・深海底巨大地形	藤岡 換太郎	講談社
雨の日の地下トンネル	鎌田 歩	アリス館
地球があぶない！プラスチックごみ 海洋プラスチック～魚の量をこえる！？	幸運社	汐文社
霞ヶ浦の環境と水辺の暮らし	鳥越 皓之	早稲田大学出版部
はずかしがりやのれんこんくん	二宮 由紀子	童心社
14歳からの水と環境問題	インフォビジュアル研究所	太田出版
ひとと湖のかかわり～霞ヶ浦～	霞ヶ浦研究会	STEP
プラスチックのうみ	ミシェル・ロード (絵)ジュリア・プラッドマン	小学館
はらぺこあおむし	エリック・カール	偕成社
おかえり、ウミガメ	高久 至	アリス館
あなたのあしもと コケの森	鶴沢 美穂子	文一総合出版
エコカルタ (楽しく学べる環境絵本)	本田 亮	フレーベル館
日本のスゴイ科学者 (29人が教える発見のコツ)	日本科学未来館 朝日小学生新聞	朝日小学生新聞社
見すごせない！海洋プラスチック問題	井田 仁康	童心社
ひとがつくったどうぶつの道	キム・ファン 絵 堀川 理万子	ほるぷ出版
マンガでわかる！10才までに覚えたい科学のふしぎ250	高濱 正伸ほか	永岡書店
プラスチックごみ問題入門～安心して暮らせる未来のために～	栗岡 理子	緑岡出版
地球がうみだす土のはなし	大西 健夫・龍澤 彩	福音館書店
日本の固有種③ 空を飛ぶ生き物	今泉 忠明	汐文社
新・なぜなぜおもしろ読本	建設技術研究所	ナノオプトニクス・エナジー出版局
霞ヶ浦の風土と食	森田 美比	農山漁村文化協会

(パートナー 浅野)

「私の細道」(その39)「鹿島詣」めぐり

令和3年(2021)3月25日、私は妻と芭蕉らの「鹿島詣」の行程のうち、**深川**から布佐までを、紀行文の記載と比較しつつ、車で迎ってみた。

東京はコロナウイルスの緊急事態宣言の最中であり、感染拡大の第2波が下火になった時期であった。

まずは、深川から。小名木川が隅田川と交差するところに**芭蕉座像**があるが、不思議なことにここに立つと、何故か東と西が入れ替わってしまう。小名木川に沿って都心があるような錯覚に陥ってしまう。小名木川沿いのビルの谷間に車を走らせ、荒川放水路を渡り始めるころに、ああ、千葉方面に走っているのだと正しい認識が出来るようになる。

旧江戸川沿いを行くと**行徳街道**に入る。ここまでくると、都市の様相が薄れて、どこことなく少し時代の戻りを感じるのは不思議である。寺社も多く、神輿造りを伝承し、旧家が保存されている。

江戸後期に設置された**常夜灯**も残されており、東国と江戸の交通の要衝であったことがわかる。製塩が盛んで船で江戸に輸送した。芭蕉らはここで舟を降りた。しばし休憩もしたであろう。私たちはふれあい伝承館で旧浅子神輿を見学し甘味を食べて、**行徳**の街並みに触れた。

芭蕉らは、ここから徒歩(かち)で北上した。旧江戸川沿いを北へ放水路を渡ると、八幡、さらに市川印西線に沿って北東に進むと鎌ヶ谷に至る。

芭蕉の頃には鎌ヶ谷大仏はなかった。今では野の趣はなく、混雑した市街地である。「鹿島詣」には筑波山が遠望されたと記されているが、とても望めるような状況ではない。

さらに北東へ、この道は木下(きおろし)街道と呼ばれ、白井を通る。「鹿島詣」には「野の駒」との記載もある。美浦トレセンが開設されるまで白井は中山競馬場の分厩舎として賑わった。今でも牧場が散在しているものの街なかではある。

さらに進むと、発作(ほっさ)辺りで左側の田畑の眺望が開ける。ここまで来ると筑波山が遠望できる。道を左にとると**布佐**に至る。この道、JR成田線を超えて都という交差点を経て**利根川土手**へと続く。

むかしは**鮮魚(なま)街道**の起点で鮭の網代で賑わう**布佐河岸**であった。布佐観音堂にその由縁が記されている。芭蕉らはここで休もうとしたが、あまりに生臭さく、そそくさと夜舟に乗って鹿島に向かった。土手に出ると川下は木下方面で左側に大きく湾曲している。この日はここまで。

そして、半年後の9月14日の朝、私と妻は、布佐か



(深川 芭蕉座像)



(行徳 常夜灯)



(布佐 利根川土手)

ら鹿島までの行程を車で追隨した。丁度、十五夜の一週間前、弦月の頃であるが、コロナウィルス禍は第5波により、またも緊急事態宣言の最中であった。

利根川を川下に向かって左手の土手沿いを走行。芭蕉らは夜船の川下りであり、ずいぶん趣を異にするものではあろうが、利根川を佐原まで下り、外浪逆浦から北浦へと鰐川に入って大船津で上陸したのである。

私たちは利根川北岸を通り、佐原から**潮来**に入った。**長勝寺**という端正な寺がある。臨済宗の古刹であるが、「鹿島詣」の「自準に宿ス」とされた3句の碑が配されている。

芭蕉らの帰路に立ち寄ったとされる自準亭が、潮来の本間道悦（号：松江）の屋敷であると主張したことを示唆するものである。ただ、現在では、自準とは行徳の小西似春であるとの説が定着している。（校本芭蕉全集）

国道51号を東へ、北浦の裾に掛かる神宮橋を渡ると、湖中に浮かぶ赤い鳥居が見える。**大船津**。ここで芭蕉らは下船したのか。丁度、横浜ナンバーのベンツが岸边に横付けして若い男女が降り立った。コロナ禍中でのドライブか。ここから、仏頂のいる根本寺までは直線距離で約1キロ。夜舟で着いた芭蕉らは、直接根本寺に向かったのであろうか。



(潮来 長勝寺)



(大船津 鳥居)



(鹿島 根本寺)

ここに、芭蕉句碑が3つある。楼門の横に「名月や鶴脛（はぎ）高き遠干潟」。本殿の後方に「此の松の実ばえせし代や神の秋」。そして、要石の横に「枯れ枝に鴉のとまりけり穉（あき）の暮」。

こうして、芭蕉の記載した「鹿島詣」を追隨した。

ただ前号でも記したように、この芭蕉の紀行文には、「神前」3句、「田家（でんか）」4句、「野」3句、そして、「帰路、自準に宿ス」3句が置かれている。これらは、どう追隨したら良いのだろうか。以下、次号で。

私たちは**根本寺**に向かった。根本寺には何度か来ている。臨済宗妙心派。道路沿いからの入り口が狭いので、すぐに通過ぎてしまう。仏頂和尚ゆかりらしさがある。中に入ると広がっており、芭蕉の句碑「月はやし梢は雨を持ちながら」「寺に寝てまこと顔なる月見かな」も見える。夜明けながら仏頂と月見の出来た芭蕉の表情が見て取れる。

その後、この寺の丁度裏側に広がる**鹿島神宮**を詣でた。

ここにも、芭蕉句碑



(鹿嶋 鹿島神宮)

(パートナー 小松)

コラム「新聞スクラップ記事から」

霞ヶ浦環境科学センターで作成している環境関連の新聞スクラップ記事から、話題性を考えてご紹介しています。令和3年2月25日の茨城新聞に、川島保育園と川島こども園の園児67名が両園の近くの鬼怒川で鮭の稚魚500匹を放流した記事がありました。コロナ感染防止の為、中止になった卒園記念遠足の代わりとして、4年後に戻ってくる事を楽しみにして行われたとのこと。水環境が与えてくれる恩恵に、こんな形もあるのだと、感銘させられました。

(パートナー 古田)

新たに登録されたパートナーのご紹介（敬称省略）

いしかわ まほ えばた ひろこ えばた みつよ まつうら たくや
石川 真帆、江畑 洋子、繪畑 光代、松浦 拓哉

令和3年4月以降、パートナー登録された皆さんです。よろしくお願いたします。

パートナー情報誌「香澄」原稿募集

香澄編集委員会では、皆さんからの原稿をお待ちしております。皆様の活動紹介や体験記、また私の趣味、センター内で見つけた新発見、パートナーからの呼びかけ（各種イベントの通知、参加者募集など）知らせたいこと、紹介したいこと、賛同してほしいことなどありましたら、内容を紙面にまとめセンター2階のパートナーズルームに設置の「香澄」専用ポストに投函するか、Eメール又はFAXでもお受けしております。

Eメールの場合：hi.tarumi@pref.ibaraki.lg.jp

FAXの場合：029-828-0967

*****<編集後記>*****

変異を経て勢いを増すウイルスとも無縁ではないとされる地球温暖化の抑制を目的とした、COP26は、実効性を示せないまま閉幕した。既に気候危機の存在が明らかであるにも拘らず・・・。

過剰に生産・廃棄された石油由来の化合物然り。環境に溶け出し、水中に止まらず粒子状物質（PM）化し大気中に浮遊するマイクロプラスチックの怖さは、あらゆる生物に取り込まれかねない、内分泌攪乱物質であり、宿主を変異させかねないところにある。

この期に及んでの排出抑制、適応策では抗えず、手遅れ感は否めない。しかし、石油製品に頼らずに現代の日常を生きることは困難である。必需品となった不織布マスクや医療器具も使い捨てプラスチックなのである。せめて使う者の責任として意識を高め、できる限りの対策を講じたい。

香澄通巻67号は、6頁構成となりました。執筆を下さいました皆様、有難うございました。構成に不備等御座いましたらご容赦の上、ご指導頂けましたら幸いです。（パートナー 栗原）

「香澄」編集委員会：浅野 明宏、有吉 潔、栗原 繁、宮河 彩乃、樽見 博文